



表紙の写真

雑誌「甲斐路」

「甲斐路」は終戦の翌年、昭和23年10月発刊した郷土山梨からいち早く誕生し、暗い世間に光明を灯した記念すべき文化雑誌である。

創刊号の奥付を見ると、発行は山梨経済同友会で編集発行人は谷口梅吉とある。定価5円。

巻頭には山梨県米国軍政部副官の肩書きを持つブラバンター氏が「民主主義への道」と題し一文を寄せ「甲斐路」の発刊を賛辞し、大きな期待を寄せている。まさに、国際化時代の幕開けを象徴している編輯である。野口二郎、寺田重雄、竹中栄太郎、石原文雄、杉原邦太郎らが健筆をふるっている。読者文芸欄には毎回多くの読者から作品が寄せられ、選者には短歌・青木張雄、俳句・五味酒雄、川柳・中澤春雨が当たっている。

「甲斐路」第3巻第1号（昭和23年1月）の表紙絵は須藤操氏が新年号にふさわしいトランプに興ずる美人画を描いている。表紙のみカラー。定価15円。

（解説：斎藤余美文庫 植松光宏）

「MUH」vol.22 2000.4.1

企画／早野グループ「MUH」編集部

深沢達・矢田道生・横田雅幸・久保田充一

編集／株式会社ニュースメディア甲府

三神弘・三井君男／高山ひとみ／原田陽子／

宮塚利雄・杉村聡・青木茂樹／

浅川毅・横克明・永田宏

印刷／株式会社サンニチ印刷

誌名の「MUH」は、早野組の社訓である「和」を託したMale（仲男）Union（結束）Harmony（調和）の頭文字からとりました。幻のムー大発のロマンを描きます。

フォーラム

テーマ インターネット 江宮隆之・古屋久昭・岩崎正吾・佐藤真佐美 2

対談

山梨21 鈴木憲仁氏 山梨県文化財植物指導員 樹木医 御坂町立御坂西小学校校長 4

家庭から、まちから広げる「緑」のメッセージ
春の野山を楽しもう

ホスト 早野 潔

トピックス

「九州・沖縄サミット」開催と沖縄 宮塚利雄 10

ウォッチング

株式会社 マルニ日商 取締役社長 佐原 忍氏 11

サークル訪問

日本野鳥の会 甲府支部 13

セミナー

印傳から学ぶマーケティング戦略 青木茂樹 14

レディースセミナー

「山菜」コミュニケーション 小沢睦美 15

インフォメーション

トヨタビスタ山梨・トヨタホーム山梨・甲府通運・早野組 16

歴史

三条夫人 上野晴朗 18

美術

ボク的美術品観察日記15 山本育夫 20

BOOK

こんなところに山梨… BOOKコーナー 「食い物を粗末にするな」 22

お茶の間の民俗学(13)

—ふるさとの心と味(8)— 志摩阿木夫 23

滝を見るハイキング

室久保川 的様の滝 上野 巖 24

甲府通運前史を訪ねる(15) 林陽一郎 25

ユーザー訪問

JOY 26

お家探見

関澤 章さん 27

エッセイ

うどんの街 富士吉田 川崎勝信 28

ときのひと・FACE

株式会社 早野組 早野組テニス倶楽部 29

トレンド

男性化粧品 30

おしゃれ メンズブラザアオキ 田宮リバーシティ店 たべる カルビ屋 げん気 31

コラム

某月某日 杉村 聡 32

靈界通信

江宮隆之

電話をはるかに上回る速度で急速に普及したインターネットが現代を変えた。そして今度は携帯電話という世界を武器に新たな「変身」を遂げつつある。これらをまとめて「IT革命」と呼ぶのだそうだ。ITとはインフォメーション・テクノロジー、つまり情報技術を示す。だが「一家に一台パソコン時代」なのに、ほとんどの小説家は、このパソコンをワープロ代わりに文書を書く(実際には打ち込む)ことくらいしか利用出来ないのである。

それでも何とか自分の仕事に利用したいと考える歴史作家がいて、彼は悩んでいた。関ヶ原を書くのに、どうしても徳川秀忠の動きが理解出来ないのだった。どうして徳川軍団最大の将兵を率いながら、中山道の途中で真田昌幸などに関わり合ったのか。関ヶ原に急がなければならないことは秀忠にも分かっていたはずなのに。秀忠がボンクラだったから、などという理由はありえない。天下分け目の戦いに向かう軍団であることは誰の目にも明らかだったのだから。

その歴史作家はこういう假説を立てていた。

秀忠は、わざと遅れた。しかも徳川の最大軍団の所

在を不明にしたままで、何故なら、石田三成を憐れさせるためである。本隊ともいえる徳川の最大の軍団が、どこにいるか分からないままでは、三成の状況判断に大きな狂いが生じてしまうことになる。

秀忠は、父親の家康と打ち合わせが出来ていた。いわば「川中島」の武田信玄が取った「別働隊」の真似であろう。家康は、秀忠の率いる徳川軍団を、別働隊として活用しようと思った。だが、関ヶ原の戦いは家康や秀忠の思惑以上のスピードで決着がついてしまった。結果として秀忠は「天下分け目の合戦」に遅れた。という汚名を残すことになってしまった。

「この仮説が実証されるのは、インターネットしかない」。作家は、近い将来必ずあの世との情報の交流がインターネットで可能になると確信している。そうすれば自分の仮説が、秀忠からのEメールで実証されるはずである。

それは「霊界通信」と言い換えてもいいだろう。次には「竜馬暗殺の真相だ」。そしてその次は「邪馬台国の謎」。「信長殺しは誰か」もいいな……。あの世とのインターネットは楽しい。

インターネットは天才

古屋久昭

「インターネット」、私がこのことばを最初に知ったのは7年前のことである。仕事の関係で「地域情報化計画」などという頭の痛くなる仕事に少しばかり関わっていたことから知っていたのだが、インターネットということばは、当時では、ほんのごく一部の人でしか知っていなかった。だからその頃ではインターネットもインターハイもインターチェンジもインターホンもインターンも、大正生まれのおふくろからしてみれば、みんな同じようなものに見えていたにちがいない。

その後のインターネットの普及ぶり、社会への浸透ぶりは知っての通りである。まさにクモの巣のごとく、あっというまに世界中に網を張り、席卷してしまったのである。

とにかく、世に便利という名のつく物は数々あれど、今やその筆頭がインターネットといってもいいだろう。インターネットを利用すれば、世界中の情報がパソコンの画面に難なく取り出せて、取り出した後の活用の仕方
もまた多様で、インターネットを使っの売り買いも今、急激に増えているという。今後次から次へと新たな活用方法があの手この手で開発されてくるのは必至。「便

利さの裏に怖さあり」。それはともかくとして、昨年の夏、思い切ってこの際とばかりに、パソコン、プリンター、スキャナー、デジタルカメラの4機器を一挙に購入した。もちろんインターネットへの接続も済ませた。これで私も一人前に情報化社会の会員資格を得たというわけだ。あとはいかに機器を使いこなすかだが、今のところ私が使える範囲などというものはごくわずかで、おそらく全機能の5パーセント程度と思っている。

さて、インターネットで、情報を見たり、覗いたり、監視したり、電子メールでやりとりしたり、遅い帰宅でもパソコンの前に座るのが日課となってしまった。「ただいまー」、女房にあいさつしない日があってもパソコンにはあいさつをし、インターネットへと手が延びていくのである。

いずれホームページも開設し、世界中の人からアクセスしてもらいたいと夢みている。それにはインターネットをもっと使いこなせねば。その前に肝心のパソコンの機能をもっと知り、多様な使い方を習得しなければ、いやはや薬しむための苦労も大変だ。ちなみに私のEメールは furuwa@apricot.ocn.ne.jp よろしく。

待望の「乱世」がやってきた

岩崎正吾

本業について書かせていただく。出版、著述の世界はいま乱世を迎えている。グーテンベルクが印刷機を発明して以来の革命だという人もいる。乱世の原動力はインターネットなど電子情報技術で、言ってみれば幕末の「黒船」のようなものである。

本は出版社から取次を経て書店に配本され、読者の手元に届けられる。取次は東京に集中しているから、日本中の本が東京に送られる。荷造りの手間、費用、時間など、地方出版社は最初からハンディを背負っている。しかも大手の取次はほとんど小出版社の本は扱わないから、わたしたちのつくる本は書店に並ばないことが多い。

読者の手に取られる機会を奪われていたのだ。

しかし、近年、本の中央集権体制が音をたてて崩れはじめた。インターネットによる販売が増してきたからである。近代日本が百年かけてつくりあげた出版の体制が変わりつつある。

この混乱は、わたしたちのような零細地方出版社にマイナスではない。インターネットにより出版社と読者が直接結びつくことも可能だから、取次に拠られず書店

に並べられることの少なかったわたしたちにビジネスチャンスが訪れたといえよう。

大きなうねりは、出版だけでなく作家をも襲うだろう。本の販売は既成の流通制度に寄りかかり誇大広告の力で行われていたが、読者が著者を選ぶ時代が来る。すでに作家小松左京がインターネットを利用し自己出版社をつくったが、作家自身が自分の力で読者を探さなければならない。

つまり作家の営業力が問われる時代を迎えるだろう。自分で本を売れる力を持たなければ、作家も生き残れない。

戦後日本を支えてきたさまざまな仕組みが制度疲労を起こし、崩れつつあることは数年前から見えていた。中央集権から地方分権への動きは、そのシンボルのようなのであろう。

本の世界の乱世も、また同じ「時代の変化」の中にあるものである。

作家であり出版人であるわたしにとって、この2、3年は正念場であると思っている。

『怪奇！大東京妖怪ゾーン』

佐藤眞佐美

着想の第一はミステリイサークルだった。イギリスの麦畑で発見された奇怪な渦巻き模様は、フランス、ドイツ、メキシコと旅をし、ついに九州に上陸、北海道から秋田を回り山梨県埴崎市に出現したのは1991年。この奇怪現象はUFO発着の跡ではないか、というのがSF通の推理であった。その少し前、チェルノブイリで生まれたのっぺら坊の豚、6本脚の馬などの写真が公表された。

『母は枯葉剤を溶びた』という本で、ベトナム戦争の影響による奇形胎児を知った。これらが着想の第二。

新宿三丁目の一角に、細い路地をはさんで両側に「お岩稲荷立正殿」と「お岩稲荷田宮神社」がある。案内板では互いに四谷怪談の本来争いをしていて、一帯を鬼横丁という。お岩が鬼になって駆け廻ったからだという。双方にお岩が産湯を使ったという井戸があり、神社の方は水枯れの跡だけ、立正殿の方は四角い石組みの井戸。井戸に蓋がしてある。そっと持ち上げるとマンホールになっていた。これはどこまで続いているのか、という疑問が着想の第三。作品の構想が決定した。

1992年に発表した標題作(原題「ぼくらは大江戸探検隊」は売れないとみてポプラ社で改題)は、ミステリ

イサークルと四谷怪談に環境破壊をからませた、これから起こるかもしれない怪奇現象、異常出産などを警告したホラー作品である。作中、児童文学作品ではたぶん初めてだろうと自負するのだが、インターネット通信を重要な小道具として登場させた(評論家はタイトルだけで通俗読み物として無視)。請う、ご一読。ただし目下品切れ。

かつて勝沼のブドウ畑にUFOが着陸し、宇宙人と実際に話をした少年がいた。作家の北川幸比古氏は取材に訪れ、その少年に会ったという。いろいろ調べてみると山梨県には昔から、未確認飛行物体がしばしば飛来しているらしい。どうやらそれは富士山のせいではないかと思われる。宇宙からみて日本でもっとも目立つのはあの山だ。つまりは着陸の目印となるらしいのだ。この富士山がいま砲弾の嵐にさらされている。米軍の実弾射撃訓練の標的になっているのだ。富士に砲弾は似合わない。やがてUFOは騒音を目印に飛来し、山麓一帯に地球外生物を放牧するかもしれない。富士はいまの環境のまま守りたい。拙著は古本屋で200円で売っていた。



1998年山梨県生まれ。作家・著書に『道徳の人』『建築の光に包まれず』『青森山の生活』『数学の天才と一人住み家』は待望の単行本。『数学の天才と一人住み家』は待望の単行本。『数学の天才と一人住み家』は待望の単行本。

1945年戦時中、日本軍に徴用された。日本軍に捕虜となり、日本軍の捕虜生活を送る。戦後、日本に帰国し、日本軍に捕虜生活を送る。戦後、日本に帰国し、日本軍に捕虜生活を送る。

長瀬正高
 1944年昭和陸生大卒
 作家 山形県山形市生まれ
 作家 現在「樹」で小説
 のつづりを書きつづけている
 小説を山形に専らしようと
 奮闘中。また「インター
 ネット」上で作家 藤田
 浩典と交友している
 著書 新作とスナリ
 「聲の谷」が好評
 同時に「探偵の街」が空
 想小説

北海道産産物
1990年北海道産物
日本児童文学研究会
日本児童文学協会
東京に於いては、大塚幸枝
性（メー）（ボブ）「文
ちゃんのいるかを知り
北海道新聞社」近頃
「シレットのシルバー」
（東京）「山崎の童話」
（東京）（東京）



早野 潔

鈴木憲仁氏

家庭から、まちから広げる 「緑」のメッセージ

春の野山を楽しもう

ゲスト

すずき のりひと
鈴木 憲仁 氏

山梨県文化財植物指導員 樹木医
御坂町立御坂西小学校校長

ホスト

はやの きよし
早野 潔
早野組社長

森はまさに共存世界 いい出会いで植物好きに

早野 緑の季節の訪れです。そこで、山梨県文化財植物指導員の鈴木憲仁先生のご登場です。春が待ち遠しかったことでしょうね。

鈴木 新緑の野山に出かけるのが、今では生きがいのひとつです。

しかし、コンピュータが普及しまして、当節は家にいながら山の情報が得られるようですね。名前の知らない植物でも、花の色や形等から検索できるようですよ。

早野 「赤い花」という指示から、「イワツツジ」に出会うことができるわけですね。データも揃うわけですね。

鈴木 しかし、情報機器というのは、あくまで機器であって、人間に豊かな感性を与えてくれるものではありませんね。植物を知るためには、やはり実感のある出会いが大切でしょう。

早野 野山の楽しみとはなんでしょう。

鈴木 昨年町内で、「親子野外教室」を三度ほど開設しました。最初に青木ヶ原の樹海を訪ねました。森林はただ雑多な樹木が生育しているのではなく競争と共存をしながら一つの社会を形成しています。高木の下では、それらの木々の木漏れ日くらいの光に適する木が保護されて生育しています。さらに地面のコケは直射日光から守られて生育しています。ところが、コケも大木の命を支えています。雨が降らないとき、水分をいっぱい含んだコケは、大木に水を補給しています。大木とコケも共存しているわけです。

また、溶岩地帯ですから、木の根は地面深くまで伸びず、非常に倒れやすいです。ところが木々は隣同

士の枝が絡み合い、スクラムを組むようにして風で倒れるのを防ぎ、助けあっています。

早野 みんなで風を防ぎ、守り合うのですよね。

鈴木 こうした植物群落は、陽樹は陰樹に取って変わられるセオリーになっています。陽樹は40%前後の光がなければ生長できない木ですが、陰樹は5%前後の光で生きていられます。シラカンバなどの陽樹が林をつくると、その下ではシラカンバは光量が少なく生長ができず、少ない光で生長できるブナなどの陰樹に取って変わられます。

早野 まさに、社会ですね。森で出会う植物は、植物図鑑のように「あいうえお順」で並んではいません。ひとつの環境と、関係のなかで生存しています。観察とは、そうした生きる実感を感じ取ることでしょか。

鈴木 情報化社会、高速化時代ではありますが、自然の中から体験を通して学んでいくことは、学問の基礎でしょうね。人間はある程度の基礎知識がないといくら発見とか創造と言ってもその手掛かりになるものはありません。

早野 自然は、人と人とのあり方や、「生きる力」を養ってくれますよね。そんな野外観察が、この春、家族とできるといいですね。

不思議さからの発見 ツツジの種も花もいろいろ

早野 研究者としての散策は、ものを見る視点が違うでしょうね。

鈴木 「山の村でミツバツツジを買ってきたのだが、里では花が一月遅れて咲く」と不思議がって話す人がいま

す。見ると種が違うんですね。一般にミツバツツジと呼んでいても、山梨県の地域では、標高1000m付近を越える所にはトウゴクミツバツツジが生育しており、雄しべが10本あります。ところが里に近い山に生育するものは、雄しべが5本で、決定的な違いがあります。種が違うために開花の時期がずれているのですね。

早野 少し観察すれば種も、花の咲く時分の違いも納得できるのに「不思議だ」というところで終わってしまうのですね。

鈴木 植物の種も、分布も、日本においてはすでに調査が徹底されているといってよいでしょう。ところが、山を歩いていっても、目はなにごとか発見しようとしません。

一昨年は、富沢町で、どうしても今まで見たことのないツツジと出会いました。葉に個性があります。葉を一枚採取して、さっそく図鑑と照らしてみました。すると、これまで千葉の清澄山、伊豆の天城山、三重の太台ヶ原と、三カ所でしか発見されていないキヨスミツバツツジでした。

驚きましてね、翌年、新緑の頃に先駆け、花を確かめにいきました。やはり、キヨスミツバツツジでした。山梨にも分布しているのだという発見でした。

早野 ツツジをお好きな方は多いことでしょう。山梨には何種類のツツジがあるのですか。ヤマツツジがあります。それから、さきほどのミツバツツジと、トウゴクミツバツツジがありますね。

鈴木 全体で17種ほどです。千代田湖の周辺にはダイセンミツバツツ

ジがあります。

早野 そして先生の発見されたキヨスミツバツツジですか。新緑がまぶしい、ツツジが美しいというだけでなく、知識を増やすと、自然とは、さらに楽しくお付き合いができますね。

山梨にいて山知らずは何故 人生の目標は「日本百名山」

早野 山歩きは、もうどのくらいされているのですか。

鈴木 人生のように、山歩きも長い目標をもちたいと思ひましてね、まず、山梨百名山を目指し、すでに全山をきわめました。現在は日本の百名山が目標です。

早野 日本の百名山は九州の開聞岳があれば、北海道の大雪山もあるという全国に名だたる百の山ですね。

鈴木 さらに42の山に登りました。

早野 どんな仲間と登られるのですか。

鈴木 そのときそのとき、人をお誘いしながらです。昨年の晩秋は、一人で月山へ登りました。朝一番のバスに乗って、乗客はただ一人。登るのも、

下りるも、一人でした。

早野 山形県の山ですね。出羽三山とも呼ばれて、修験道の山として知られてきましたね。

鈴木 標高は1,984メートルです。はじめての挑戦、はじめての出会いというのは楽しいものです。そしてひとつひとつ経験をしていくのは感動的です。

早野 日本百名山のなかには、もとより日本一の富士山をはじめ、山梨県の山がいくつもあげられていますよね。北岳、八ヶ岳、甲斐駒ヶ岳、金峰山があります。

鈴木 身近な大菩薩峠も、そうですね。いくつもあります。なんと恵まれていることでしょう。山と一緒に暮らせるのが、山梨の住み心地の良さです。

また、街にいても、南アルプスの稜線を眺めると、「ああ、あの辺で難儀をしたっけ、あの辺で弁当を食べたっけ、あそこでカモシカに出会ったっけ」と、いろいろな記憶がよみがえってきます。幸福なひと時を過ごせます。

歩いた稜線は忘れないので、遠く

からでも山のかたちを見れば、「あれは何処の山」、というふうにわかります。

早野 山登りというのは誰にでも出来ますか。

鈴木 花や野鳥や動物が好きな人なら資格あり、です。最近では中年の登山者が増えています。ことに女性の方が目立ちます。いくつもの山に登るのもよいでしょうし、ひとつの山の四季を訪ねて登るのもよいでしょうね。

早野 奥様とご一緒に出かけられることもあるのですか。

鈴木 今年は正月元旦、除夜の鐘を聞いてから、本栖湖の竜ヶ岳に誘いました。はじめは億劫がって登っていましたが、やがて空が明るみ、初日の出が富士山頂から出ると感動しましたね、「きっと今年はいいい一年になる」、などと興奮していました。

早野 山のファンを増やしましたね。教職にあられますから、関心のもたせ方や、ご指導がよろしいのでしょうか。

鈴木 いやがる生徒を連れ出し、その素晴らしさを体験させてやること、その感動を動機に、今度は一人でや

りは始めるのを見届けること、これが教師の仕事でしょうか。

早野 山梨にいても山の名前さえ知らない人が多いなかで、先生は、まさに、山梨の人、ふるさとを愛する達人ですね。

落葉樹のガーデニング 四季のある街でありたい

早野 ガーデニングが、今、盛んですよね。これから本格的な季節にもなります。先生は、落葉樹のガーデニングを推奨されていますよね。

鈴木 いろいろな庭を拝見するのですが、常緑樹のモチノキとかヒイラギなどもよいのですが、落葉樹のよさは、木の四季が楽しめることです。芽生えのとき、新緑、花どき、夏、葉を揺るがせて通ってくる風は涼しいものです。秋には紅葉。冬はまた、枯れ葉を踏む情感があります。落葉しますから、日差しもたっぷりと差し込んできます。

木には、人間と同様に、自由に枝葉を伸ばさせてやりたいですね。日本人は丹念に剪定をしますよね。ヨーロッパ人は、それを不思議がります。ありのままの姿で、個性を出させていくのがいいのではないのでしょうか。

早野 落葉樹は、四季の表情を味わえます。また、実もつけますね。

鈴木 メジロ、ウグイス、シジュウカラ、コカラヒワなどが果をかけます。いい声を聞かせてくれます。自然との親しい交流があります。

一年中、花のある庭づくり、ガーデニングも提案です。たとえば、ロウバイからはじまって、サンシュユ、サザンカ、ツバキ、タニウツギ、キンモクセ



すずき・のりひと：1941年山梨県御坂町生まれ。中学教師のかたわら植物分類・形態学を研究。1971年山梨大学内地理学。1988年から二年間上越教育大学大学院に内地理学。著書に「山梨の花」「山梨の高山植物」「山梨の自然史」(山梨日日新聞社刊)

イ…、というのはどうでしょう。

早野 いやがうえにも植物図鑑を開く機会が多くなりますね。楽しみながら、いつか植物のことを学んでいきます。やがては自然と人間との環境にも関心をもつようになっていくことでしょう。街路樹も芽吹きを季節を迎えています。緑が多くなりましたね。

鈴木 元気な並木もあれば、同じ種類でも、勢いのない並木もあります。地域に合った樹木の選定が、まず、基本なのではないでしょうか。甲府の平和通りのケヤキ並木は、よく繁っていますよね。その土地との相性がいいのでしょうか。

早野 お奨めの木はありますか。

鈴木 ヤマボウシというのでしょうか。ミズキ科の落葉樹です。

早野 ああ、夏、細い花を球状にいっぱい付けますよね。

鈴木 山法師で、ヤマボウシ。紅葉も見事です。イチゴのような実もつけ

ます。

ほかには、コナラ、クヌギもいいでしょう。春に花を開きます。これも落葉樹です。伐っても伐っても、芽を吹きます。トチもいかがでしょう。五月頃、白色に紅のかかった花をたくさん咲かせます。

早野 実は、餅にしますね。トチ餅といって、素朴な味わいですよね。

ソメイヨシノはなぜ枯れる 桜も山梨に14種ほど生育

早野 桜並木は、何処でも痛々しく弱っていますね。

鈴木 日本人は桜が好きで、桜並木は多いのですが、ただ、一般的に知られるソメイヨシノは、品種改良によってつくられたサクラです。ですからテングス病にかかりやすい性質をもっています。一か所から枝がたくさん出て、花が全く咲かないところを見ることがあります。このテングス病にかかった





所は、切断するしかないですね。

早野 長野の高遠の桜は長い歴史があり、かつ、毎年盛んに咲きますね。
鈴木 あれはコヒガンザクラと言う種ですね。百年を超える樹齢を誇る名所ですね。ところが、ソメイヨシノの樹齢は、40年から60年といわれています。ですからソメイヨシノを植えて、枯らせて、また、ソメイヨシノを植える、というのでは桜並木にはなりませんね。

ソメイヨシノは葉が出る前に花が一斉に豪華に咲いて、ぱっと散ります。それが日本人の心情にあうのでしょうか。しかし花が短期間に咲いて散るのは、自然の摂理には合っていないのです。

早野 ほう、花どきの長さ、短さは、植物にとってはどう影響するのでしょうか。

鈴木 たとえば、環境の厳しいところで生育する高山植物などは、花が次々に咲いて花期をできるだけ長引

かせる性質を持っています。花が咲いた時にもしも天候が悪かったとすると、虫たちに来て貰えず受精ができません。その結果種が残せなくなります。花期を長引かせ、どこかのステージで受精ができるようにする戦術を持っているのです。

早野 なるほど。植物の世界は、奥が深く、また、人間に多くの示唆を与えてくれますね。

鈴木 街の桜並木は、根から充分な養分を摂れないという悪条件もあるのではないのでしょうか。

早野 周辺の人たちの植物への知識や、愛護の精神も影響するでしょうね。花の咲いている時期だけ楽しんで済ませるというのでは、翌年は花を見せてくれるかわかりませんね。
鈴木 桜も山梨には自然種が14種ほどあります。

早野 そんなにもあるのですか。それを知らなければ花見のしようもあ

りませんねえ。

鈴木 山に出かけてヤマザクラと呼んでいるのは、盆地周辺ではほとんどカスミザクラです。ほんとうのヤマザクラは、南部町より南に行きまないと見られません。奈良で秀吉が花見をしたという桜が、ほんとうのヤマザクラです。カスミザクラよりヤマザクラのほうが、葉が厚くて、裏が白いのですね。

早野 昇仙峡の周辺で眺める桜はなんでしょう。

鈴木 オオヤマザクラではないでしょうか。富士山麓や八ヶ岳の清里あたりではミネザクラなどが楽しめます。

早野 まさに、山野に目が開かれました。植物の世界に新入会したようです。たくさん花や植物が「わたしを見つけてください」と、呼びかけているようです。山歩きの楽しさも教えていただきました。

[構成：三神 弘]

山を訪ね、花との出会い

鈴木 憲仁

OPEN
THE NEXT
DOOR!

全国各地を歩くと、
いろいろな植物や花との出会いができます。
人それぞれの楽しみがあるわけですが、
私にとって全国各地を歩いて、
初めての植物や花に出会うことは、
この上ない感動の
得られるひとときです。
いくつかの出会いの
感動の場面を紹介します。



■高嶺の花ウルップソウ(長野県白馬岳)
昨年の夏、家族で白馬岳の登頂を試みた。大雪渓を登り切った所でウルップソウの群生にお目にかかった。高山植物でも数少ない種である。また後援では、コマクサの大群生に出会えた。

山梨は花の名山の宝庫

他県の山を歩くにつれて気づいたことは、山梨県には植生豊かな花の名山が多いことです。三ツ峠、大菩薩峠、樹形山、甘利山、湯ノ沢峠、乙女峠、南アルプス北岳など、お花畑もあり、多種多様です。日本列島の北と南の接点なのでしょう。季節を変えて花が見られます。



■全山カタクリの花(新潟県上越市)
山梨県では、カタクリの自生地は少ないので、大切に保護されていますが、雪国の新潟県では、全山の踏み踏もないうらにびっしりと群生が見られます。この葉を摘んで、食用にバックで出荷されています。



■早春の花、キクザキイチゲの群生(青森県十和田湖)
十和田湖周辺には、5月連休にまだ所々に雪が残っている。観光客が歩かない西岸を歩いたら、キクザキイチゲやミチノクエンゴサクなどの早春の花達に出会えた。



■どこまで広がるフクジュソウの群生(長野県信濃町)
山梨県での自生は少ないので、貴重な植物になっているが、長野県茅野市では田の土手のここかしこに生育しています。



■春の妖精ミズバショウ(長野県鬼無里村)
長い間「鬼のいない里」とはどんな所だろう、行ってみようと思っていた。村人に聞くと「このミズバショウは尾瀬より規模は小さいが、密度では日本一だぜ」と自慢していた。

薦める季節

早春ですね。冬が終わり、マンサクやセツブンソウ、ミスミソウ等がいち早く春を告げだします。そして山は芽吹き運動の季節を迎えます。芽吹き前の萌え色の色彩くらい目に柔らかなものはありません。この時期、スミレの仲間、イワカガミ、イカリソウ、カタクリ、ニリンソウ等が咲き出します。

特に雪国の春は格別です。雪が解け出すと多くの花が一斉に咲き出すのです。3月末から4月上旬にかけて上越ではキクザキイチゲ、トキワイカリソウ、オオイワカガミ、ミスミソウ等が咲き揃います。

7月21日から九州・沖縄サミット(G8・主要国首脳会議)が開催される。サミットは第一次石油ショック後の世界経済の混乱を受けて、1975年にフランスで第一回の会議が開かれ、以後毎年一回開かれている。欧州以外では唯一のメンバーである日本にとっては、国際社会との重要な接点を持つよい機会であり、しかも今世紀最後のサミットという記念すべき開催ということもあって、政府は全力で取り組んでいる。小渕首相も「サミットの意味を十分に理解し、二十一世紀が真に平和と繁栄の時代になるよう、力強いメッセージを発信しなければなりません」と、サミット成功への決意をこのように表明している。小渕首相がサミット成功にみなみならぬ熱意を示しているのは、小渕政権の命運がサミット会場である沖縄県にかかっているといっても過言ではないからだ。それは基地沖縄の最大の懸案である、米軍普天間飛行場の名護市への移設問題で対応を誤れば、サミットや年内に行われる総選挙に深刻なダメージを与えかねない。

一方、サミットの主要会場となる沖縄県にとっては、サミットで沖縄を「世界の架け橋」とし、あわせて「特別自由地域」「マルチメディア・アイランド構想」などの大型プロジェクトを立ち上げ、経済の自立化に向け、ダイナミックに動き出している。「本土とは違う生活や文化をアピールしたい」(稲嶺恵一沖縄県知事)と意気込みもすさまじい。沖縄らしさを堪能してもらうために、参加する首脳夫妻に

山梨学院大学
経営情報学部教授
宮塚利雄

「九州・沖縄サミット」開催と沖縄



サミットの主会場「万国津梁館」の完成予想図

は地元の伝統染め織りでつくる「沖縄オリジナルウェア」を着てもらおうという。さらには、首脳会合や歓迎行事、写真撮影などが行われるサミット主会場となる、名護市部瀬名岬の「万国津梁館」には、琉球瓦や琉球石灰岩がふんだんに使われている。「万国津梁館」の名称は公募によって決定したものであるが、由来はかつて首里城正殿に掲げられていたと伝えられる、鐘に刻まれた銘文である。

銘文は琉球王国が海外諸国に橋を渡すように、船を通わせて貿易を展開した時代を謳っており、「世界の架け橋」を意味する。

一時的ではあるが、世界の注目を浴びることになるだけに、沖縄の54市町村では各国首脳の招聘合戦も活発化している。サミット関連でイベントを企画しているのは約30の市町村。各国の首脳が地元の市町村を訪れば、マスコミを通じてその様子は世界中に発信され、地元の活性化にもなるからだ。例えば、宮古島の平良市、下地町、城辺町、上野村の四市町村は、シュレーダー・ドイツ首相の招聘を希望している。宮古島とドイツには因縁がある。1873年にドイツ商船が宮古島に座礁した際、島民は荒れ狂う海に小舟を出し、乗組員8人を救助、34日間にわたって手厚く看病した後、帰国した。これに感動した当時のドイツ皇帝ウィルヘルム一世は、3年後に軍艦を派遣して、島民の勇気と博愛精神を称える碑を建てた。島内には「ドイツ文化村」がある。

サミットで沖縄が世界に紹介されることは大いに歓迎されることである。しかし、在日米軍の75%が沖縄に集中して「基地の島」となっていること、1972年の本土復帰以来、国は沖縄振興に約6兆円をつぎ込んだが、失業率8.8%(1999年10月時点)と全国平均の約2倍、一人当たりの県民所得も全国最低という沖縄の現実も知ってもらいたいものである。



名護市内に掲げられているサミット参加国の旗

ジャンパー姿で颯爽と現われたその人は、「社長らしくない」というのが第一印象だった。威圧感がないから、こちらスッと相手の心に入っていく。口をついて出てくるのは、他人を誉める言葉や感謝の言葉。でっけい奉公を経験してきた人ならではの、芯の強さ、ふところの大きさを感じた。今回はそんな素晴らしい人が社長を務める、ギフト卸会社をご紹介します。



ここまでこれたのも 周りの方々のおかげ

一般の繊維卸業から冠婚葬祭専門のギフトに切り替えたのは、今から28年前、某人のアドバイスを聞き入れてのことだった。その先見の明を裏付けるように、(株)マルニ日商は着々と販路を築き、実績を上げ、あっという間にこの業界では県内大手となった。今でこそ同業他社は10社以上にのぼるが、国中のシェアが約50%を占める会社は、他にはない。「ここまでやってこれたのも周りの方々が支えてくださったおかげ」と佐原社長(58歳)。たとえ一時、損をしても、相手が良ければめぐりめぐって最終的にはウチも上手くゆくだろう。そんなことを思い、日々お客様の立場を優先するよう心がけてきたそうだ。「皆様に支持されてご用命いただけるのが、最高の生きがい」と、一つひとつの言葉を噛みしめるよう

に、しみじみと語る社長。その謙虚で誠実な人柄が買われて、得意先からも厚い信望を集めているだろうことは、おおかた察しがつく。

一所懸命すれば、 続けていけると思う

葬祭の仕方も変わってきている。現在、ホールの使用は甲府市内で80%。その数は今後5年間でさらに増え続けていくと予測される。景気の影響も少なからず考えられなくはないが、核家族化や合理化が進む市内では、50年前に比べると一件当りの弔問者数も3割近く減っているという。一方で中間卸の簡素化など流通業も今、大きな変革期を迎えている。



●株式会社 マルニ日商データ●
昭和47年創業。ギフト商品の卸業を行う。資本金1千万円。社員数14名。冠婚葬祭用のギフトが9割を占め、販売先は互助会やJA、一部百貨店外資など。平成11年12月27日に新社屋が完成。それまで営業を行っていた甲府市南口町から現在地へ移転した。
〒400-0851 山梨県甲府市住吉3-24-11 ☎055(225)5586

取締役社長
佐原 忍 氏
さばらしのぶ

株式会社 マルニ日商



「今、ちょうどその切り替え時期かも知れませんが。ウチでは幸い、2年前に次男が修行から帰ってきました」と、うれしそうな佐原社長。「先行きの見通しを見てみれば、この仕事も一所懸命やりさえすれば頑張っていけるとおもいますから」と話す。

休みは1年にせいぜい5日くらい。「心配して来てるんでなくてね。皆が日曜出勤してくれていてそんな有難いことはないのに、私が横になってゴロゴロしてられないんです。そういうタイプなんですよ」。

ゴルフもおつき合いで年に3回ほど行くが、そんな具合だからちっとも上手にならない、と照れ笑い。取材後は、ひょっこりと身軽にわざわざ外まで見送りに出てきてくださったが、そんな行動にも全く嫌みを感じられなかった。それはきっと、事あるごとに礼を伝える「商人魂」が当たり前のように体にしみついているからなのだろう。

「ウチはお客様や社員に恵まれている」と話していたが、こんな人のもとで働ける社員も恵まれている。後継の息子さんの心強い助力を得て、どうか(株)マルニ日商がこれからも発展してゆきますように。

50年目の春、これからますます。



さらなる物流を目指して...

事業内容

- 一般貨物輸送
一般、専用、専用
- 重量品輸送
取り付け、取り外し搬出入作業
- 入出荷請負
荷造り、梱包作業、出向代行業務
- 引越輸送
事務所・工場の移転、ご家族のお引越等
- JFRコンテナ輸送取り扱い
- 一般貨物全国定期便
- 宅配便
- 航空便取り扱い
- 生命保険の募集及び損害保険代理業



西暦2000年、甲府通運はおかげさまで創業50周年を迎えます。折しも今年は21世紀への節目の年です。この50年、物流の世界もめまぐるしく変化、進化してきました。しかし、いつの時代も変わらないコト、それはお客様との信頼関係に他なりません。甲府通運はこの節目をさらなるスタートと考え、これからも、ずっと信頼される物流業を目指し歩み続けます。

①甲府通運株式会社

本社 〒409-3845 山梨県中巨摩郡田代町流通団地3329-1
TEL.055-273-0611 FAX.055-273-9332
田代営業所 〒409-3845 山梨県中巨摩郡田代町流通団地3211-14
TEL.055-273-5471 FAX.055-273-6277
東京営業所 〒174-0042 東京都板橋区東坂下2-3-10
TEL.03-3967-6001 FAX.03-3967-6124

サークル訪問

汗で育つ 感性が光る
街にめばえる文化探訪

野鳥を通じて 自然を観る目を鍛える仲間たち

日本野鳥の会

甲府支部



仲間とのバードウォッチングは本当に楽しい

野鳥をみて楽しもう、 というのが基本

「日本野鳥の会」は、年末の「紅白歌合戦」でご存じの方も多だろう。白と赤、どちらにどれだけ応援者がいるかを瞬時にカウントする、そう、あの人たちが。会の中でも、彼らのようにカウントを得意とする人たちがいれば、珍鳥を求めて海外にまで足を伸ばす熱心な人や小学生のジュニア会員など、メンバーは様々だという。

昭和45年、全国的な動きの中で甲府支部が誕生。以来、30年にわたっ

て活動を続けてきた。

「基本的には趣味のサークルですから、それぞれのニーズに応じて楽しめればいいと思っています」と副会長の依田さん。年間を通じて県内外での探鳥会を開催している他、仲間どうして独自のイベントを計画したり、ときには国や県の委託で統計調査なども行っている。「さえずりを録音したり、姿を撮ったり、絵に描いたり、

あるいは、いかにもバードウォッチャーらしいファッションに凝ってみるなど、皆思い思いに楽しんでいる」そうだ。

小さな個体から 次第に視野が広がって

専門分野は奥が深いもの。鳥の世界もまた然り。「最初は小さな個体を追いかけてながら、次第に「環境」といった大きなことまでつながっていくんです」

と依田さん。「野鳥は、その地域の自然の豊かさを示す指標。それほど鳥と環境は密接なもの」だという。環境保護も含め、より多くの人に野鳥への関心を持ってもらおうと、県の景観自然保護課と協力してパンフレットも作成した。

鳥は人間と違って、顔の側面に目がついているため、非常に敏感なのだそうだ。私たちも、鳥のように視野を広く、見えないものにも敏感に暮らしてゆきたい。



◆日本野鳥の会 甲府支部◆

1970年発足。『やまなし野鳥の会』が本部からの要請を受けて甲府支部に。現在、会員は250名。小学生から年輩の方までと年齢層は幅広い。月2回、定例探鳥会を開催。会員誌「カワセミ」なども配布し、野鳥観察や自然への理解を深めている。富士山麓支部もあり。
副会長 依田 正直
連絡先 〒400-0025 甲府市塩部3-14-14
☎ 055(252)2996

過日、印傳の「インドより伝来した説」の真偽を調べようと、テレビ局の方よりお誘いがあり調査してみたが、様々な面白いことが発見できた。まず、疑問に思われたことは、素材である「鹿皮」も、皮に風合いを出す「ふすべ技法」も、色付けの「漆」もすべて日本に古来よりあるものだということだった。そこで、その源流を辿ってみると、特に戦国時代に武具として通気性の良い鹿皮が利用され、多くの需要に応えるために、中国やインドから鹿皮が輸入されていたことがあったようだ。その頃は、鹿皮に限らず牛、馬など輸入皮の総称を「インデン」と呼び、それを扱う問屋を「インデンヤ」と呼んでいたらしい。

しかし、戦国から太平の世に変わると、もはや武具は必要とされなくなってしまった。多くのインデンヤは衰退していったであろうし、武具以外の製品化を進めたインデンヤも全国に在ったようだ。そこで、甲州のインデンヤは、江戸にて台頭しつつあった庶民に目を向けて製品化を進めた。社会構造の変化に対応し新たな市場を探し出し、武士から庶民へと眼を向けていったことをマーケティングでは市場環境分析という。また、今日4P戦略と呼んでいる。Product（製品戦略）、Promotion（販売戦略）、Price（価格戦略）、Place（流通戦略）においても、他社とは違う独自の差別化戦略を展開している。製品戦略としては、庶民が求める製品には財布ひとつをとっても様々な素材やブランドがあったであろう中で、少しでも独自性を打ち出そうとして、鹿皮をふすべたり、漆を盛り上げて塗る技術確立していった。販売戦略では、差別化された製品に「甲州印傳」と名づけ、イ

印傳から学ぶ マーケティング戦略



山梨学院大学
商学部専任講師

青木 茂樹

ンドから伝わる異国情緒を醸しながら、庶民の憧れとなるように位置付けた。当時のインド・東南アジア地域にはスペイン、ポルトガルがすでに進出しており、さらには東インド会社としてオランダ、イギリスが競って進出し始めていたから、印傳という言葉には今以上の響きがあったに違いない。価格戦略では、元禄の頃には100万人になったといわれる江戸の人々にも高所得者から低所得者までいるなかで、あえて高価格設定をして、ハイクオリティな製品に憧れのイメージを重ねたことに一貫性を持たせた。流通戦略としては、江戸の前期まで関西が文化・経済の中心であったものが江戸に移行していくなかで、地理的な優位性を発揮していったと考えられよう。

印傳が面白いのは、江戸の多くの文化は関西の公家文化が憧れの頂

点にあり、それが徐々に大衆化していった構図をとるのに対して、武家文化であり、武具でしかなかったインデンはそうした源流をもたない。そこで、日本人の海外ブランド志向に着目し、異国の憧れを抱かせるように戦略を展開していく。これは当時としては画期的な戦略であっただろう。このブランド志向は今日の日本人にも深く根付いているものだ。また、今日の印傳は剣道や茶道の小物に多く使用されているそうだが、これこそ武家文化の名残であろう。

今、我々が当時の印傳商人に学べべきところは何か。現在の経済不況のなかで消費者の低価格志向が強いかという理由で、価格競争ばかりが行われている。しかし、価格競争ばかりが商人の仕事ではない。新しいターゲットを見出し、ニーズに見合った商品やサービスを提供することで、生活者の幸福創造の一助となるように関わっていくことに商人の醍醐味はあるのではなかろうか。今は誰も彼もが価格競争の一辺倒だが、これだけでは商人のアイデンティティを壊していることに他ならない。江戸初期のインデンヤは、生活の生き残りをかけて、低価格の武具を作るものもいただろうし、低・中級品の小物を作ったものもいただろう。甲州の印傳商人たちは、一時は活路を絶たれながらも、新たな市場を見つけ、アイデンティティをもって製品を作り、高価格で異国情緒香る印傳を販売していった。庶民は安い鹿皮製品を求めたのではなく、甲州印傳を手にする事で小さな夢を買ったのだろう。こうして、日本唯一の印傳が今なお甲州に生き続け、深い伝統を継承していくこととなるのだ。

山梨放送ディレクター



小沢 睦美

「山菜」コミュニケーション

「あれ？今日はどうした？何かあるのか？」。買ったばかりの春物のスカートをはいて出社すると、早速上司からもの珍しげに声をかけられた。そういえば、最近「女性らしい」いでたちで仕事をしたことがなかったことに気づき、ちょっと気恥ずかしさを感じてしまった。

山梨放送に入社し、ラジオディレクターになってから丸5年。学生の頃、「キャリアウーマン（もう死語かもしれないが）」に憧れ、スーツを着て、颯爽と街を歩く自分の姿をよく想像していたものだが、実際に社会人になってみると、動きやすいラフな格好でいつも社内を飛び回っている。昔では「厚底ブーツ」たるものが流行っているようだが、ヒールの高い靴など無縁の世界である。覚悟はしていたものの、予想通り、いや、予想以上にハードな仕事、それが「ディレクター」という仕事だ。

「ラジオのディレクターって普段は何をしているの？」と、友人に聞かれることがあるが、要はラジオの番組を企画し、出演者を決め、構成を考え、時に取材・編集して放送するという「ラジオの何でも屋」である。

一人のディレクターが生放送、収録番組を含め、だいたい3つから4つ担当し、放送日へ向け、慌ただしく準備を進める。当たり前のことだが、放送日は予め決まっています、待ってはくれない。特に生番組では、放送直前までバタバタしていることが多く、スタジオはまさに戦場と化すのである。そして、その戦場には、休日も平日も、ない。

入社前は、誰もが認める「テレビっ子」。見たい番組がなくても、気が付けば、リモコンを片手にザッピングの日々。それが、今ではすっかり音の世界の住民となり、居心地の良さを感じている。

ディレクターになって間もない頃、こんなことがあった。朝の情報番組の中で、リポーターの女性（山梨放送では「スコパーレディ」と呼んでいる）が、河原に咲く花について中継したところ、その中に、彼女の知らない花があった。「名前はわからないんですが」と前置きをし、その花の姿や、花びらの色を説明した直後、スタジオに1本の電話がかかってきた。それはちょうどラジオを聞いていたリスナーからのもので、その女性が「もしかしたら」ということでその花の名前を教えてくださいました。名前は名乗らなかったが、毎日、家事をしながら、番組を聞いているという。

また、昨年のことであるが、番組の中で「コシアブラ」という山菜の話題になり、アナウンサーがその山菜についての知識がなく、リスナーに情報を呼びかけたところ、何と、その日の番組放送後、ちょうど探ってきたばかりだからという男性が、その山菜を届けに来てくれた。「天ぷらや、おひたしにすると美味しいんですよ」と、その方は新聞紙で包んだ山菜を笑顔で手渡してくれた。

番組制作に携わっていると、とにかく、リスナーの知らない新しい発見を提供しなければ、という使命感にかられる。しかし、情報をリスナーに伝えることばかりが番組では、ない。リスナーが情報の発信源となり、私たちが番組を通じて教えてもらうことも実際、多いのである。

ディレクターとしては、まだまだ半人前。今なお、汗もかくし、恥もかく。私の担当する番組は自分の服装同様、「普段着」のままなのかもしれない。それでも、背伸びすることなく、等身大のまま、リスナーとのコミュニケーションを大切にしていきたいと思う。

もちろん、時にはおしゃれも楽しみながら、ではあるが。

INFORMATION

高級ラージセダン誕生 4月7日デビュー!!

トヨタビスタ山梨は、今年創立20周年を迎えます。これからも、ご愛顧のほどお願いいたします。

今春・既存の国産ラージにはない、新世代の高級スペーシャス3BOXセダン!が誕生します。

圧倒的に広い室内空間・ラゲージ空間を確保、国産車で6人乗りベンチシートを設定しています。

そして、新鮮かつ華やかなスタイル、新しさと高級感を合わせ持つ室内デザインは、きっと満足いただけます。

また、安全性も、信頼のGOA、D席+P席エアバッグ、サイドエアバッグを全車標準装備しております。どうぞご期待下さい。

〈車外〉



〈車内〉



※写真はすべてデトロイトモーターショー出品車。日本で発売される車両とは、一部仕様が異なります。

トヨタビスタ山梨(株)
本社：甲府市朝日3丁目10-21 TEL055-232-5511

トヨタホーム独自の 安心プロジェクト

見えない安心が見える住まいを支えている
“ずっと安心宣言”トヨタホームは永く安心できる暮らしを応援します。

■S&I発想の家

21世紀の住まいづくりのためのトヨタホームの考え方。長期寿命のスケルトン(Skeleton:躯体)の中に、可変自由なインフィル(Infill:住機能)を組み込むというものです。

■ずっと安心宣言

S&I発想を基にした21世紀の住まいづくりのための、トヨタホームの新しい考え方。建てる前、建てる時、そして建てた後も、ずっと安心して暮らせるための様々なサポートプログラムを開発していくものです。

◆30年住まい安心特約

お引き渡し後30年間、所定の有料定期点検(計6回)・有料メンテナンスを行っていただくことを条件に、基礎および構造躯体に一定の不具合が生じた場合は、無料で修理いたします。

◆設備機器5年間保証

水まわりや電気設備関係などの不具合に対処する、業界最長の5年間無償修理を実施。住宅設備の安心もトヨタホームにおまかせ下さい。

◆24時間サービス相談窓口

トヨタホームをご購入いただいた方に、住まいにおいて何か困った事が発生したら、すぐに電話でご連絡いただける365日24時間対応の相談窓口。緊急を要する場合も迅速に対処します。



トヨタホーム山梨(株)
本社：甲府市朝日3丁目10-21 TEL055-275-1234 FAX055-275-7806

INFORMATION

一般貨物の全国定期便の配達が 早くなりました

不特定多数のお客様から集荷した貨物を、営業所で仕分を行い、その貨物を積み合わせて目的の営業所に運送し、運送された貨物の配達に必要な仕分を行う業務を、定期的に行う全国定期便は、運送の中でも手間がかかり、複雑な部分が多いかと思えます。

当社・名鉄運輸グループは、少しでも早くお客様にお届けできるよう、運行形態を変え、輸送向上に努めています。

■輸送・配達日程

便名	出発時間	所要日数	配達県名
○北海道便	20:00	翌々日	北海道全域
○東北1便	18:30	翌日	青森県、岩手県、秋田県
○東北2便	20:00	翌日	宮城県、山形県、福島県
○水戸、土浦便	20:00	翌日	茨城県全域
○千葉便	20:00	翌日	千葉県全域
○北関東便	20:00	翌日	栃木県、群馬県
○都内23区便	20:00	翌日	東京23区全域
○多摩便	20:00	翌日	府中市、他多摩全域
○神奈川便	20:00	翌日	神奈川県全域
小田原、伊豆便	20:00	翌日	沼津、伊豆半島全域
○浜松便	20:00	翌日	静岡県全域
北陸便	20:00	翌日	富山県、石川県、福井県
長野、新潟便	20:00	翌日	長野県、新潟県
○名古屋便	20:00	翌日	愛知県全域
○三重、和歌山便	20:00	翌日	三重県、和歌山県全域
○滋賀、京都便	20:00	翌日	滋賀県、京都府
○大阪便	20:00	翌日	大阪府全域
○神戸、岡山便	20:00	翌日	兵庫県、岡山県
○四国便	20:00	翌日	徳島県、香川県、高知県、愛媛県全域
広島、中国便	20:00	翌々日	広島県、山口県、鳥取県、島根県全域
○九州便	20:00	翌々日	福岡県、大分県、佐賀県、熊本県、長崎県
		4日目	鹿児島県、宮城県は福岡市店にて横替え

○印は横替えなし直行便、配達が早くなりました。
尚、都部は到着日数がかかる場合がありますので、ご承知して下さい。

甲府通運(株)
本社：甲府市朝日3丁目10-21 TEL055-273-0611

景観舗装のお知らせ

ペーパーコンクリート

①概要

従来のゴム製型枠を押し付けるタイプのスタンプコンクリートの作業工程を大幅に見直し、施工手間を簡略させた新工法。

②特徴

- ・シンプルな工程で、工期短縮に役立つ
- ・自然石を張る工法に比べ、低コスト
- ・ノンスリップ工法も可能



③用途

駐車場、遊歩道、車道、屋上、プールサイド、その他

スプレーデッキ

①概要

有機溶剤を一切含まない特殊な「水系アクリル樹脂」と「セメントを主成分とするプレミックス粉体」を施工直前に混合させて、専用吹付機を使用し、スプレー工法で仕上げる床専用工法。

②特徴

- ・防滑性に優れている。
- ・豊富なカラーバリエーションで、美しい仕上げが経済的に迅速に可能。
- ・新設はもちろん老朽化したコンクリートでも見違えるほどの改修が可能で、躯体の寿命を延ばす。



③用途

駐車場、遊歩道、店舗の内・外装、屋上、プールサイド、その他

※上記につきましては当社のホームページにも掲載しています。当社ホームページはyahooの検索に「早野組」と入力しますと一発で検索できます。

(株)早野組 本社：甲府市東光寺1-4-10 TEL055-235-1111
http://www.hayano.co.jp

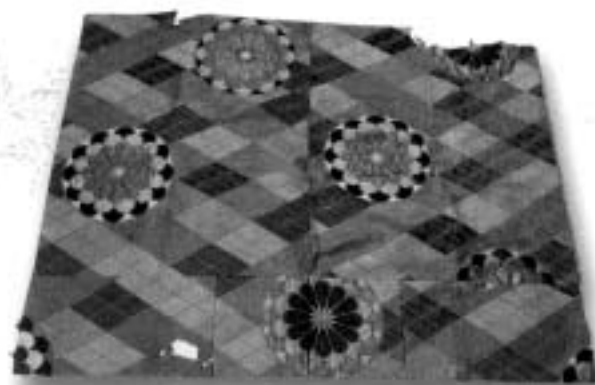
信玄の側室諏訪御料人に較べ
悪女の典型にされてしまった夫人
戦国の苛烈な時代を生きた
正夫人の真の生きざまとは

三条夫人

(さんじょうふじん)

上野 晴朗

うえの はるお
1923年山梨市生まれ 歴史家・作家 県立図書館郷土資料室
を経て67年から文章活動に入る、著書に「甲斐武田氏」等多数



三条夫人の遺品 打敷き
大円菊花が豪華である(円光院蔵)



三条夫人の葬儀目録
(円光院蔵)



三条夫人の位牌
(甲府市円光院蔵)

武田信玄の正室三条氏は、大永元年(1521)三条公頼の二女として、京都の三条邸に生まれた。三条家は清華七家の一つで、極官は太政大臣。三条の方は公頼26歳のときの生まれで、姉には管領細川晴元の夫人と、妹には本願寺顕如上人の妻方がいる。

三条家のそのころの住まいは、京都市上京区寺町広小路の、梨ノ木神社のところといわれる。近くに有名な御所三名水の一つ「染井の井戸」がある。

三条夫人は天文五年(1536)、16歳で同じ年齢の武田晴信のもとに嫁してきた。中道往還の本栖湖畔に、三条夫人が入甲のおり、この古道を通ったという伝説が残されている。そして今もそれを記念して本栖には、公卿行列というのが伝えられている。

結婚は勅許であったので、姫の行列は公家侍に警護され、先頭には役羽織着用の露払い、続いて唐櫃、扶箱、さらには侍女頭の駕籠、その後を姫の乗物が進む。婚礼の儀式も帝のお声

がかりであったから、すべて公家風に行われたという。まず、姫君がみちびかれて北側から几帳の陰へ入る。続いて婿君の晴信も、烏帽子に直衣姿で、同じく几帳の南側から入る。

そして中で二人が向き合って座ると、白無垢の女房が小餅を盛った銀盤を捧げ持って入ってくる。添えられてあるのが銀製の箸、新郎新婦はこれを取って、餅三枚を食べる。もちろん食べるといっても、ただ真似をするだけである。そのあと婿殿には酒が出るが、花嫁には出ないのが公家流婚礼だという。

これがそのまま行われたかどうか、明らかではないが、こんな公家風婚礼をやらされたら、田舎大名の武田家の家風が黙ってしよう筈もない。おそらく三条夫人への風当たりは、当初から相当きついものであった様子が窺われる。

しかし三条夫人は決して屈せず、嫡男義信が天文七年(1538)誕生する。

晴信と夫人はともに18歳。次いで天文十年次男龍宝が生まれた。夫妻は21歳。さらに天文十二年に今度は女性が誕生する。北条氏政の妻となる黄梅院が天文十二年に、翌天文十三年には穴山信君に嫁した見性院が生まれた。さらにその翌年ころ木曾義昌室となる真理姫が誕生しているのである。

武田信虎と晴信との確執は、晴信を遠ざけようとした信虎の行為から始まったが、その対立は嫡男太郎義信が誕生した天文七年前から、天文十年へかけての交代劇の葛藤が山場とあってよかった。とくに義信の三歳の袴着の式を行ったところが、一触即発の危機が迫っていた。

従ってその頃の苦き日の三条夫人の危惧や苦悩を思うと、せつかくの新婚気分も、嫡男誕生も、袴着の儀式も、すべて薄氷を踏む環境の中で進められていたのである。それは悲痛な思いを煽りこそすれ、決して歓喜と誇りにつながるものではなかった。

だが夫君晴信が見事にこの苦悩を処理し、乗り切ってくれたのである。伝承によると、三条夫人はかくれなき美人だったといわれる。残念ながら、その肖像画が残されていないので想像の領域でしかないが、美人であるがために、のちのち、その妍のあるその風貌だけを強調して、のちのちの物語が、清華七家の出であることを強調する高慢な女性と評しているのは、なんともおぞましい。

三条夫人が女盛りに、夫晴信との間に、男女六人もの子供をもうけていることは、それだけでも晴信との夫婦関係は、健全そのものであったことを

裏付けている。しかし、それにしても三条夫人は、子供運にあまり恵まれない方であった。嫡男義信の父晴信への謀反、二男龍宝は盲人、三男信之は早世、娘達もまた決して幸福とはいえなかった。北条氏政夫人、穴山梅雪夫人、木曾義昌夫人にしても三様の悲劇に見舞われている。

三条夫人もまた、元龜元年(1570)七月二十八日、その生涯を閉じられた。享年50歳であった。甲府市円光院にその葬儀目録が残されているが、その中で恵林寺の快川国師は次のように述べている。

「あなたは五十年の間、御仏の道を



三条夫人の墓(甲府市円光院)

説いて参りました。然るに重陽の菊の節句に先立ち、涅槃に入り、やわらかく透きとおった、真の御仏になられてしまわれました。まさに三条家の明るく光り輝くともしびは、霊山の涙一色に覆われてしまったといえましょう。それも人生五十年、常にうれしい悲しみ、西方の一美人として、貴女は存在しておられたのです。

諡は円光院殿梅岑宗鑑大神定尼

うやうやしく惟みるに、貴女は朝廷に伺候する家柄、尊き華族の一員と

してお生まれになりました。

そして御人柄はまさに、円光日の如く、あたかも春の陽射しのように、周りの者をやわらかく温かく包む御気性でした。その御姿はまさに、大いなる功力をもたれている観世音菩薩のように、相互関係をもった憂鬱の世界のみにくいものを掃除し、洗い清めて下さいました。(中略)

思えばそれだけに、御裏方には常に供養に御用いになる、種々のものが整っていました。それを慕って、武田家につながる御婦人方が貴女のまわりに集まってきて、御裏方には平和が満ち充ちていたように思います。貴女

はそのため、その御婦人方のためにも、たえず工夫をこらし、相談してはかり考えて下さる方でした。

まさに三条夫人の仏法は、驚きの仏法と断ずることができましよう。即ち夫武田信玄公との間は、比翼の契り、夫婦仲の睦まじかったことは譬えようもなく、常に仏法護持の信玄公のお考えによって行動され、七宝に輝く堂舎のことなど考え

る暇もなく、正邪を判別する認識の上に立って、身を律しておられました。そしてついに、臨済禅の中で燃えつき、涅槃に達着されてしまわれたのです。

やんぬるかな、悟りの境地を貫きとおされ、炎のような黒い輝きとなって、身籠ってしまわれたのです。

このように述べている快川国師の言葉の中に、三条夫人の人柄が滲んでいるように思う。それは「愁い殺す、西方の一美人…」に尽きるのではないだろうか。

絵は読み解くもの？

ある時代の、ある芸術家が、ある理由によって描き出した芸術作品という代物、時間が経ってしまうと描かれた時代の雰囲気や描かれた絵の意味など、皆目検討がつかないということになってしまう。

もっとも多くの場合、当時は「芸術作品」などではなくて、ただ単に「美術品」であったわけだろうし、描いた画家も、「芸術家」などではなかったのだろうけれど。

そこで美術史家や学芸員が懸命になって絵の読み解きをしなければならぬということになる。

今回紹介するゴヤの絵、タイトルを見なければいったいどういう情景を描いた絵なのか、ピンとこないはずだ。

若い女性たちが大きな布をひろげて見上げている。(図1) 微笑みを浮かべている女性もいる。女性たちの視線の先には、奇妙なしぐさの男性が浮かんでいる。空から落ちてきたところを受け止めようとしている？ 少し無理すればそのように見えないこともない。

不思議な男性

それにしても、男性の体は変な感じ。タイトルを見ると疑問はとりあえず解ける。

「わら人形遊び」。

なあんだ、この男性はわら人形なのか。だから首や腕が変なふうに曲がっているんだ。(図2、図3)

しかし、ボクラにはまず、わら人形をこんなふうに空高く跳ね飛ばして遊ぶ、その遊びがわからない。しかもこ

空に浮かんだ木偶の坊の正体

ボクらの美術品観察日記

15

山本育夫

ミューズ・オブ・ゴッダ・ドムエ(キーマン)／美術品観察日記
イ・タプリニ／美術批評・展覧会批評・展覧会批評・展覧会批評
長 週刊朝日に展覧会批評連載中

の人形、等身大の人形である。それにどう見てもわら人形とは思えない。奇妙にリアルに描かれているのだ。

実はこの絵、タペストリー(織物)の下絵だという。下絵はあくまでも織物のための下絵であるのだから、織物が完成すると打ち捨てられてしまう。

つまり、今では有名なゴヤも、当時はこうした、誰にも「鑑賞」されない下絵画家であったことがわかる。こういう場所からゴヤは、宮廷画家として「成り上がって」いったわけなのだが、そうしてみるとこの絵も、なかなか興味深い。

下積みの思い

調べてみると、人形遊びという遊びそのものの中に、今は華やかに見えているものもいつかはこの人形のようになんの意味もない木偶(でく)の坊になってしまうのさ、という意味が込められているという。

下積みの画家であったゴヤの思いが、この絵には反映されているような気がするのだ。今は落ちぶれている自分だっていつかは華やかな場所に立つことができるという、裏返された思いが透けて見えるからである。

女性怖いのだ

もちろん、もっとうがった見方だってできる。

遊んでいる女性たちの表情をアップで見えてみると、そのことがよくわかるにちがいない。(図4)

でしょう？ どこか男をバカにしたような視線、男なんてこんなふうにもてあそべるものなのよ、という視線だ。

男たちがつくりだした世界など、こんなふうにはたわいのないものなのよ、という皮肉の声が、この絵から聞こえてくるような気がするのだ。

それに、これはちょっと想像したくないのだけれど、浮かんでいる男性、もしかしたら死体なんじゃないのか？ と思える節もある。だって人形というからそう思うだけのことで、死体だってこういう奇妙な仕草をしそうじゃないか。うつろに見開かれた二つの眼。

ブルブル、いやはや、おそろしい。

こうしたゴヤの下絵は、1860年代に織物工場の地下室から発見されたという。修復されて、10年後にブラド美術館で公開された。



図1



図2



図3



図4



フランシスコ・デ・ゴヤ(1746-1828)
「わら人形遊び」
ブラド美術館蔵

■小正月のころ

一月十四日から十五日にかけて、山里の活気が溢れる。遠いむかしから日本人には切っても切れない小正月の楽しみが訪れたからである。

小正月とは、現在の大正月に対して呼ぶもので、遙かむかし、人びとが月の形で日を数えた時代の正月の名残りであって、一年の最初の満月の日の年の始めとしたころの伝承を、そのまゝ受け継いでいる歳時の中にも、ほのぼのとした心の詩を伝えている行事である。(現在の暦では一月十五日は必ず満月とはならない)

くらしは貧しくても豊かな心言が「ドンド」となったというが、たしかにこの火の燃え盛る様子を見ていると、その中から神様となった遠い祖先の姿が浮かび上がってくるように思われるのである。

ドンド焼きはおもに子どもたちの行事だが、これを見守る大人たちにも、限らない郷愁を呼んで、そのひとときはみんなの心が一体となり、悠久の時の流れを改めて思い、そして新しい年への感動に酔うのである。

ふるさとのおとと味(8)

小正月のころ
餅花とまゆ玉

民俗学研究者

志摩 阿木夫

し ま あ き お

■餅花とまゆ玉

この日の行事食は餅花とまゆ玉である。餅花の方は丸い形のダンゴで、まゆ玉は文字通りまゆの形をしている。山梨ではこのまゆ玉を「おめえ玉」とか「おだんす」と呼んでいるが、ともにお正月の神様にこれを示して、餅花の方は稲の多収穫を、まゆ玉の方はま



虫歯にならないとか風邪をひかないといつて盛んに食べた。またドンドの火に書き初めを投げ込んでそれが高く舞い上がると、字が上達するなどといわれて、これにも子どもの興味を注いだ。書き初めはともかく餅花やまゆ玉は、前述のような収穫の予祝であるから、大人たちの感心も深く、太平洋戦争が始まる以前までは、どこか家でもたくさん作って、大きなものになると一本の木に鈴なりに差して、座敷いっぱいには広がるほどのものにして、この木を座敷の柱にしばりつけるようにしたところもあった。それほど半世紀ほど前の人びとにとって、稲やまゆの収穫は生命がけの祈りであった。

ゆの多収穫を願う呪術としてつくられるもので、一月十三日の夕方、祖母や母が大きな「ゴンバチ」に米の粉を入れ、水で練ったものを、それぞれの形にまとめて蒸しあげ、これを「ダシゴバラ」と呼ぶ木の小枝に差して、正月様の供え物とし、子どもたちはこれをドンドの火で焼いて食べた。これを食べると

は生命がけの祈りであった。時が移ってこれらの農作物への感心も薄れてしまった現在、ドンド焼きも餅花・まゆ玉づくりも形だけのものになってしまったが、小正月という行事がまだ残されている以上、本当の小正月の心を蘇えさせることが、これからの日本の平和への道であると思う。

甲府に江戸の歌舞伎が

やって来た

大入りの亀屋座

団十郎が

見得を切る

事」という歌舞伎の芸を完成させた人。甲府へ来たのは三代目だが、観客を魅了した芸風は想像できる。「和事」というのは、いわゆる遊び果てた末に身を持ち崩す、というやつしの美しさ。義理と人情の間で葛藤をする。

その頃の甲府はどうであったか。甲府城は勤番制であり、大勢の勤番士やその家来、家族らが江戸から移り住んでいた。江戸と文化は地続きだった。三味線など、あれこれの芸能も盛んだったし、流行もすぐに入ってきた。甲府の城下にも影響を及ぼしていた。こうして勤番制の特異さが、江戸の歌舞伎を呼ぶという土壌を育てていったのだと思わ

こんなところに山梨
思いがけない場面で
ふるさと再発見

甲府の西一条通りに亀屋兵衛という人物がいた。甲府に江戸の歌舞伎をはじめ呼んだ興行師である。甲府城の東、金手町の教安寺の境内に小屋を掛け、花形役者の坂田藤十郎、市川小團次の芝居をうった。

明和四年、今から二二三年前の夏の甲府である。噂に聞いた江戸歌舞伎の一行とあって、小屋は大入りだったに違いない。野外であったから、観客は手拭いで汗をぬぐいながら、また、夕立ちを案じながら、前の客の背中張りつ

下にも影響を及ぼしていた。こうして勤番制の特異さが、江戸の歌舞伎を呼ぶという土壌を育てていったのだと思わ

食文化論

「食い物を粗末にするな」

立川談志 著



落語家、立川談志の「不景気だ」というのになぜ食い物を捨てるのか」という毒舌の一言。談志はものない戦中戦後を過ごしてきた。したがって、食い物が有り余っている世の中、デパートの地下の食料品売り場や、スーパー、地方へ行けば行ったで、海や山の土産品の積まれているのを見るにつけ「食い物のオンパレードだ」と「ぞ」とする。談志は「捨てる、残す、に腹が立つ」という。

その腹の立ち具合を、紹介したい。「何が世の中不況だ。何が失業率だ。甘ったれるな。少なくとも、日本の失業率のほうに中国の労働者より数百倍良い暮らしをしているはずだ。失業、失業。たつて、手前の好きな職業に就けないか、あるいは、労働条件が気に入らないだけ」「現代の奴ア、自分の家で何か料理を作ろうとすると、そのメニューに合わせて、食品や食材を買ってくる。けど、作るために使った食品の残りは見事に捨てる。当然出来上がった料理の余りも捨てる。食いのこは全部捨てる」「捨てるより腹を下すほうが、まだ許せる」「本当の貧しさを教えてやるのが大人の責任だ。日本中を不景気にすりゃあいい」といふほどの怒りようなのである。(川)

講談社 ¥840(税別)



的様の由来を記した銘板



川底にはっきり見える的様



新緑の中、広い滝つばに白く落ちる的様の滝



室久保川は、道志村内では道志川最大の支流である。水源域が広く、水は豊富だ。それに渓流の大部分が石灰岩や石英岩で占められているため、川床はきれいで水がほんとに澄んでいる。奥地には、かつて大理石を切り出した場所さえあるほどだ。

この室久保川沿いの道志の湯から、さらに1.3 kmほど林道を登った川の中に的様(まどさま)と呼ばれる不思議な自然現象がある。「甲斐国志」がこれを的確に書き残している。「……此水諸窟山より流出深谷ヲ流レテの巖ト云アリ 水中唯一片石ニシテ其中ニ圓ニシテ白ク其中ニ白キ筋二重アリ 正中ニ白キ一點アリサナガラ射的ノ如シ 圓外ノ両端ニ長サ三尺許ノ白紋アリ 巖下ニ瀑布アリ高二丈許……」(巻之三)

七川之部第十六之下

「ここには伝説の類は書いてないが、村ではこの的様の由来として、『昔、源頼朝公が富士の巻狩りの折、この地に標的を造り、武道錬成のための射を射る』としている。むろん単なる伝説であらうが、自然のいたずらにしては誠に絶妙に過ぎるの様な様である。

滝は的様から続く岩に一段を作って見事に滑り落ちていく。落差は7mぐらいだが、広い滝壺を満たし続ける清流はさすがにいいばかりだ。なお、滝の名前は村役場に尋ねても不祥とのことなので、仮に的様の滝とした。

道志の湯を通り過ぎて、車を滝上まで乗り入れることは可能だが、湯に入る前に、森林浴を兼ねて林道歩きでひと汗かいて来るのもいいだろう。一度左岸に渡る林道は、再び右岸に戻ってやや傾斜が増し、頼朝伝説の銘板が立つややひろい林道脇に着く。

参考タイム

国道413号
↓ 車5分
道志の湯
↑ 徒歩25分、車8分
↑ 的様の滝

甲府通運前史を訪ねる(15)

〈甲府通運のページ〉

甲

府通運株式会社の創立については、本誌1996年10月号に「甲府通運の誕生」として概略を述べたが、今回、本社の通運事業免許の関係書類を見ることがあったので、先の記述とは重複するかもしれないが、お許し願いたい。

第二次世界大戦が敗戦という結果で終わり、戦時体制の各種の統制が解除され、通運事業も一社独断から複数制の導入により、「甲府小運送株式会社」が先代早野欽介によつて設立された。昭和23年(1948)12月のことである。これが本社の前身だが、当時は日本通運(日通)の下請業務が主体であった。この状況を発展解消するために積みあげた実績をもとに、新しくスタートしたのが「甲府通運株式会社」である。このときに使用車両として運輸省に提出した申請書には、自動車10輛、大型普通トラック(トヨタ)4電×2、(いすゞ)5電×1、トヨタ4電×5、その他1、それと(GMC)5電×1との記載がある。申請認可等の関係書類は後述とし、今回は当時の使用トラック、特にGMCトラックについて記してみよう。

山梨県下を走った 甲府通運の米軍払い下げトラック

●CCKW-35Bカーゴボディ・オープンキャンブ

林 陽一郎

はやし よういちろう
山梨県教育委員会・歴史編集文化財担当



GMCトラック
(田宮模型モデルキット説明書より)

第二次大戦で打撃を受けた我が国には、あらゆる物資が不足し、運輸業界においても戦前の旧式自動車を使用する状況が続いた。上記の本社使用のトラックも、戦前の車や日本軍の払い下げの車輛であった。これに対し占領軍、特に米軍は自動車王国の名の通り、その使用する車輛の数は膨大なもので、さらに年数が経ればスクラップ化して民間に払い下げるものが多かった。これら廃車されるジープやトラックは横須賀の元海軍兵器廠に集められて払い下げられ、日本で再利用された。

本社のGMCトラックもこの米軍払い下げ車輛であったと思われる。米軍の星のマークを消したトラックが甲府の街を走った。GMCトラックについて資料を探したが見当たらなかったが、静岡市の田宮模型からこのGMCトラックのプラモデル(1/35ミリタリーミニチュアシリーズNO・218)が発売されているので、この説明書を引用すると、「(前略)『ジミー』のネーミングは81万台のうちの65万台を占めたのがGMC製であったことに由来しています。さらにその65万台の中の圧倒的多数は、メーカーのコードネームでCCKW-352/353と呼ばれる形式でした。(中略)自重4.8トン、オフロードでの積載量2.42トン、道路上での積載量4トン、最高時速72キロと、当時としては卓越した性能をもち、ジープと同じく全戦域で連合軍の足となつて活躍しました。(後略)データ、全長6.86m(ウインチ付)全幅2.23m、エンジンGMC270型4サイクル6気筒、104馬力/3000回転」。

昭和25年(1950)6月、朝鮮戦争が勃発、在日米軍の使用車輛は急増、それとともに廃業の車輛も多く、追浜の兵器廠の広場には見渡す限り廃車の列という状況だった。「進駐軍払い下げ車輛の取扱」というジープから大型トラックにいたる車輛を解説した本行本が、運輸省の宮本氏の手により出版されたのもこの頃である。



なじみ深さに勝るものなし
心の潤滑油として
地域から愛される商店



“21世紀に残したい歌”や“21世紀に伝えたいこと”といったキャッチフレーズをTVやラジオで耳にする今日この頃。…もし、“21世紀に残したい店”があるとしたら… うん、迷わずこういう店！今回の取材でそんなことを感じた。

長坂町のメイン通りに立ち並ぶにぎやかな商店街。その中心地に「JOY」は建っている。下着や靴下から寝具まで扱う、総合衣料のお店。店頭にはちょっとした雑貨や文具、おもちゃ、ファミコンに食品等も並ぶ。

「地元のお客様に支持されることをいちばんに考えてきました」と答えてくれたのは、小尾専務。創業は昭和37年。店舗面積や駐車場もこの辺りで最大の老舗だ。「トヨタビスタさんとは甲府東の営業所時代からのお付き合いで、もうかれこれ10数年になる」という。「関西方面への出張など、多い時は1日平均100kmくらい乗っていましたからね」と小尾専務。

今あるのはクレストが3台、セブタが1台。トヨタ車はかなり乗っていても、故障が少ない点が気に入っているそうだ。プライベートはもちろん、社用として商品の配達やお客様の送迎に大

活躍。「営業の山形さんにもウチでお買い物していただいたり、いろいろお世話になっていますよ」と笑顔で話す。孫がおばあちゃんおじいちゃんとやってくるのは可愛い声をしてねだる、あるいは子供たちが気の合う友達と連れ立ってやってくる、そういった姿も「JOY」ではよく見かける風景だ。おそらく子供たちはおもちゃ箱を覗くような気持ちで、大人たちは散歩がてら立ち寄るような気持ちで、訪れているのではなかろうか。

近く、長坂町にも大型店が開店する。真新しいものはそれだけで消費者にとって魅力だが、地元で長らく親しんできた店には、言い知れない良さがあるはず。無味乾燥なスマートな空間より、義理や人情やらで少しくらい泥臭い方が、暮らしていくにはホッと居心地がいいもの。

「JOY」にはぜひ、これからも地域の人々の心の潤滑油で在り続けてほしい。

【DATA】

営業時間 10:00～19:00
定休日 第2、3木曜
〒408-0021 長坂町長坂上条2493-2
TEL 0551-32-6666



しあわせのシーンが
いくつも繰り広げられてゆく
生まれたばかりの家

境川村の国道から少し脇に入った分譲地、畑地に囲まれたのどかで日当たりのいいこの場所に、まだ数週間前に完成したばかりの家があった。関澤章さん（28歳）のお宅だ。

外観もひととき目を引くトヨタホームの「メレーゼ」。リビングでは、1歳1ヶ月の彩花ちゃんがおもちゃに囲まれて可愛い笑顔で迎えてくれた。入居して間もないとはいえ、もうすでに生き生きとした生活感が漂っている。小さい子供がいる家ならではの、和やかな雰囲気。1階には和室にリビング&ダイニング、バス、トイレが、2階には寝室と子供部屋、納戸が配されている。「アパートは狭くて部屋数も少ないし、将来的なことも

すご主人は、埼玉県のご出身。同じ看板を背負うネットトヨタにお勤めということもあるが、折しもTVで手抜き工事などの番組をみて、家をたてるならやはり信頼できるトヨタホームと決めたそうだ。

「特別こだわった箇所はありませんが、強いて言えば玄関まわりやベランダを広くしたり、キッチンの高さを調節したり、そんなところでしょうか」と奥様のみゆきさん。「今は月に1日くらいしか休みがとれないが、そのうち家庭菜園でも作りたい」とご主人も夢を話す。ピンク色のカーテンや白壁が、いかにも若いカップルらしい、フレッシュな雰囲気。ドアやフローリングは温かみのある落ち着いたブラウンだ。玄関に飾られたお花が家の中にいっそう明るさを添えていた。

考えた、家を買おうという気持ちになりましてね」と関澤さん。2階にはすでに子供用として2部屋が設けられている。「もともとゴミゴミしたところが好きじゃないんで、のんびり過ごせそうな境川村に決めました」と話

取材の合間にも、彩花ちゃんが何やら言葉にならない声で甘えては寄りつく。それを大きな愛情で優しく受けとめるパパとママ。さて、ドラマの本格的な幕開けはこれから。この新しい空間で、関澤さんご一家のしあわせなシーンがどうかいくつも繰り広げられていきますように。



◆春のイベント◆

4/22～24 ハンドメイドのジュエリー展
4月中 5月人形展

富士吉田はうどんの街である。
一見民家と変わらないうどん屋のガラス戸を引くと、土間一杯に散乱するとりどりの履き物が目に飛び込む。遅く来た人は、その履き物を伝いながら部屋に上がらなければならない。土間には大きな石油ストーブが焚かれ、その上にシャコバサボテンの鉢がひとつ置かれたりしている。

八畳二間と六畳の部屋が鍵の手につながる空間。客はぎっしりと座卓を囲み、音を立ててうどんを啜る。混むときには、その後ろに次の客が立って待っている。食べる時間は自然と早くなり、十分あまりで席を立つのが普通である。

メニューの品数は多くはない。

湯盛り	250円
かけうどん	250円
肉うどん	300円
天ぷらうどん	350円
天玉うどん	350円
カレーうどん	350円
冷やしたぬき	300円
鍋焼きうどん	500円
大盛り	100円増

など書いてある。

座卓の上には、自家製の辛子味噌、醤油、七味、味の素などの調味料が置かれ、紙箱入りのティッシュペーパー、割り箸立て、爪楊枝立てが並ぶ。

コップの水はセルフサービス。小さな紙切れに好きなうどんを書き込み注文する。若い人のほとんどが二種類のうどんを食べている。己の若い頃

会いたい人から 会いたい人へ
知りたいことから 知りたいことへ
リレーでつなぐエッセイ

うどんの街 富士吉田



川崎 勝信
かわさき かつのぶ
歌人・現代歌人協会会員

を思い、羨ましくも感嘆の声を上げてしまう。何十人が物も言わず、汗を拭きながら、一心に食べるさまは壮観であり、その一体感が快い。

店の人に聞くと、うどんの仕込みは前日の午後からやるという。うどん粉に塩水を馴染ませながら捏ねたものを、足で踏みつけて固める。それを一晩寝かせ、翌日に伸ばしながら切って茹でるというのである。うどん作りにも時が必要なのだ。吉田のうどんは腰がしっかりと固いのが特徴で、歯の弱い人には噛めないほどである。そこがうまいのだと土地っ子は自慢する。店それぞれの味があって、人々は自分の好みによって、その善し悪しを言い合うことになる。

富士吉田のうどん屋は、いま40軒近くあるという。私が初めて吉田に住んだ昭和32年頃には、「茂七うどん」と呼ばれる老夫婦の店が有名で、外にはあまりなかったように記憶している。当時は織物産業が全盛期で、街は活気にあふれていた。その織物産業が時代とともに衰退するにつれて、うどん屋の数も増えてきたように思う。自宅の居間と座敷を使って、簡単に転業できたからであろう。

東京から移り住んだ友人の見方が面白い。山梨には、ほうとう文化圏とうどん文化圏があるという。国中と郡内のことであろう。国中のほうとうは家庭料理であるが、郡内のうどんは店の料理である。人々は好みのうどん屋に向いてうどんを食べる。それはあたたか、吉田のうどんの歯ごたえ、舌触り、たれの味などを確認し、「やっぱりうどんは吉田に限る」と言い合うためのように見える。柔らかい讃岐うどんなどの店に行くことも、地元のうどんのうまさを確認するためのものだというのである。

よそから来た人には馴染めない、あのゴツゴツと固く粉臭いうどんも、地元の人にとってはふるさとの味であり、互いの存在を確認するための大切な味なのである。この地に移って四十年、吉田のうどんは、私にとって欠かせないものとなっている。

夢中になれる楽しさ

梅ほころぶ初春の朝。花曇りとも言えそうな空の下、まだ辺りは静かなのに、ここだけは爽やかなスマッシュの音が一面に響きわたっていた。

甲府市内にあるテニスコートで練習をしていたのは、早野組テニス倶楽部の皆さんだ。「好きな者たちが集まって始めたのは、かれこれもう15年くらい前からでしょうか」と話す花田テニス倶楽部部長。現在、部員は約15名。平均年齢は約42歳。毎年7月から翌3月まで行われる実業団の団体戦にも、A・Bの2チームで出場し、つい2年ほど前は2部まで勝ち抜いたという実績を持つ。今年は2チームとも3部に残留が決定した。「皆、特別テニスをしてきた人たちじゃないんですよ。私なんか我流ですからね」と笑う。そう言いつつも、ダブルスでは県大会でA級まで上がったことのある実力派だ。「好きこそ物の上手なれ」だが、「努力なくして成果は得られず」でもある。聞けば、毎週土曜の朝10時から始めて、



午後まで練習。練習試合も1日に5、6試合こなすとか。体力がないととても続かない。真夏など2試合もするともうフラフラしてくるという。そんな部長にテニスの魅力は?と聞くと「何にも考えずに打ち込めるところでしょうか。もういやなことも忘れちゃいますからね」小気味よい即答が戻ってきた。

テニスは、いいことづくめ

毎週土曜の他、暖くなると毎週水曜にはナイターでの練習も実施。部員の中には、腕利きのコーチのレッスンを受ける人やバーベル等で背筋・腹筋を鍛え、自主トレーニングする積極的な人もいる。「仕事もテニスも一緒。テニスに対する姿勢をみ

ていると、あ、この人、仕事もきつこうだろうなと思ってきて面白いですよ」と話す。「真面目な人は本当に一所懸命に取り組むし、私みたいに適当に楽しめればいいと思ってるタイプもいますからね」。気楽なおおらかに構える言葉には、倶楽部のとりまとめ役&リーダーとしての余裕も伺える。

好きなメンバーが集まって活動していた同好会がテニス倶楽部として認められ、会社から補助金がいいただけるようになったのは、4年ほど前。年に1回は、清里にあるグループの保養所で合宿も行っているそうだ。

人数が集まらなくてもできる上、費用もそれほどかからないのがいい。汗をかくから調子はいいいし、体も重く感じない。そして何より練習後のビールが美味しいと、どうやらいいいことづくめの様子。「次の目標は、個人的にはまたA級に入りたいですし、団体では2部をめざしたい」と花田部長。明るく元気な皆さんのご健闘を心より祈っています。

[取材:原田陽子]



株式会社 早野組

明るくおおらかな 部長率いる テニス倶楽部

早野組テニス倶楽部

メンズプラザアオキ
田富リバーシティ店

良い品をお値打ち価格で
提供してくれる店

全国に約270店舗をもつ紳士服の専門店。山梨県内にも5店舗あり、ここはそのうちのひとつだ。「ウチは、良い物をお値打ちに提供するのがモットー」と市川店長。それも「織る・縫う・売る」を一貫して行っている大型店だからこそ、叶う話だろう。半年前からイタリ



ねに世界の最先端を反映させた物づくりを実施。縫製も、一般的には250工程だが、アオキでは270〜370工程に及ぶという。今年は2000年ということもあり、婚礼が多く、フォーマルもよく出ているとか。「礼装も様変わりしてきましたね」と店長。ひと昔前は黒のダブルが主流



固執しなくなってきたという。価格は1万円台から7万円台まで。男の顔、とたとえられるスーツ。この春、あなたも自分を語るお気に入りの一着を探してみたいかが。ホームページもぜひ、見てほしい。



営業時間 10:00~20:00
定休日 年中無休
所在地 中巨摩郡昭和町河西1603-1
TEL 055-268-0588
<http://www.aoki-international.co.jp>



カルビ屋
げん気

美味しい焼肉が
味わえるイチ押しの店

「カルビ屋げん気」は、石和・古伯園グループが経営する焼肉店。昨年9月にOPENし



たばかりで「商品力とサービス力、店舗力のバランスを考えた店づくりをしています」という羽田店長の言葉にも意気込みが感じられる。カルビに関してはA5と呼ば

れる最上級の霜降り肉を使い、アンケートに答えていただいたお客様には誕生日に5つのプレゼントをするなど、徹底した「こだわり」メニューは、焼肉をはじめ、海鮮焼きや野菜焼き、サラダにおつまみ、スープやご飯ものまでそろっている。中でもおすすめなのは、様々なカルビを盛り合わせた和牛大皿(2980円)。また、骨付きカルビ(980円)や石焼ユッケビビンバ(850円)なども美味しい。席数は、全部で110席。宴会などの



団体様には26名まで対応できる(要予約・予算に応じて)。駐車場も広いため、何かと便利。家族や気の合う仲間を誘い合わせて、皆で楽しく、もりもり食べて元気を付けよう。



営業時間 16:30~24:00(平日)
11:30~24:00(土日)
オーダーストップは、23:00
定休日 年中無休
所在地 中巨摩郡電王町玉川24-1
TEL055-252-8780



男性化粧品

「鏡よ、鏡よ、鏡さん
世界でいちばん
美しいのはだあれ？」

男性化粧品が、ぞくぞくと登場。CMは若い女性に圧倒的な人気を誇るタレントを起用して盛んに身だしなみを訴えている。雑誌をめくれば「女の子にモテたいならエステは常識」だとか「今どき毛深い男は流行らない」といった文句が並んでいる。

化粧品業界が未開拓の消費者層に目をつけて、新たなマーケティングを打ち出した点にはお見事！と拍手を送りたいが、その一方で、ちょっと待ってよ。そりゃ、やっぱり女の傾分じゃないの！という気もわき起ってしまうのは、私だけだろうか。キレイになりたい男にキレイになるな、と言っているんじゃない。お肌を奪われたら困っちゃうな、というキレイにほっと自信のない女からの率直な感想だ。賛否両論あるだろうけど、あなたは、どう思われますか？



その美意識、ホンモノ？

先日、あるTV番組の中でこんなシーンがあった。クマさんという愛称を持つ俳優の毛深い手の甲を指して、一緒に出演していた某女性タレントが声高に「気持ちワルイ」と叫んだのだ。彼は一瞬、戸惑いを見せながらも何も言わずニコニコ顔。私はさすがだなと彼に対する好感度がグンとアップした。しかし、その女性タレントには一氣に興ざめ

てしまったという言葉だ。また、身を美しく、と書く「美」という字もある。果たして今メディアにぎわっているその美意識は、ホンモノなのか、ニセモノなのか。きちんと見極められる目を持ちたいよね。

オトコは顔、オンナも顔

キレイの基準は人それぞれ。でも(何でもそうなんだけど)自分のことを棚に上げて相手にばかり求めちゃいけないと思う。時には、胸に手を当てて考えることも大事だよ。白雲庵に出てくる魔女みたくに年がら年中、鏡に問いかけて「私がいちばんキレイ」と思いついてしまったら大変だ。ましてや鏡に無理やり「キレイと言いなさい」と強要なんかしちゃいけない。大切なのは、調子の良い時も悪い時も、そして歳をとってからもなおまっすぐに自分の姿を見つめられるかどうか。それには、若いうちから心の目をせつせと磨いて、曇らせないことじゃないだろうか。

人生はただじゃない。今をおろそかにして未来ばかりを憂慮する必要はないけれど、未来は今の積み重ねということも、忘れずにいたい。人間、生きてゆく限り、誰もが歳をとる。でも、どんなに歳を重ねても、白髪で縁取られた中、深く刻まれたシワの中に美しい表情をした人はいらる。それは、顔こそ、人間の生きざまを写す鏡だからだろう。優雅な立ち居振る舞いに他人を惹きつける生き方。若さにはとうていかなわない、たくましい美しさが確かに在るのだ。私たちもそんなホンモノの美しさをめざしていこう。どうかこの世の中に、いい顔がたくさんたくさん出現しますように。



某月某日

小学生からの英語教育は必要か？

英語が小学校の科目に導入されるそうである。日本の英語教育については、様々な専門家の意見があり、私は専門家ではないのだが、海外で生活した経験があり、いちおう英語が不自由なく使えるという経験から、話してみたい。

まず第1に「日本の高校までの受験英語の教育は現実の英語(英会話)には役に立たない」と言う議論である。これは、数十年前から言われている事で、確かに言う私もそうだったのだが、大学を卒業した時点での英語でコミュニケーションをとる能力は非常に貧しいものであった。しかしながら、私はいわゆる受験英語が無駄だったとは思わないし、あまりに会話能力に偏った教育を日本で行うことは疑問に思う。

国際的なボーダーレス化、英会話の必要性、会話に役に立たない英語はむだ、という議論の流れは、何か大切なものを見落としているような気がする。それは、「英語もしくは英会話で自由自在に意思疎通できる能力が、何人の日本人に必要か?」ということである。実際にアメリカの大学院に留学した時、始めの数ヶ月間は、英語そのもので膨大なプレッシャーを受けた。私個人としては、全ての日本人に同様な負荷を与えるのは、無駄なことに思えるからである。実際「英会話が必要である」という強い意見の裏には、その必要性よりも、英会話ができないことから来るコンプレックスがあるような気がするからである。

「発音が悪い」って恥ずかしいこと？

第2に「日本人は極めて発音が悪い、だから子供のうちからの英会話の学習が必要なのだ」という議論がある。はたして小学生もしくはそれ以前から、英語教育を施すことが日本人の発音の向上につながるかと言うと疑問がある。長く海外に居た後で、テレビなどで日本人の英語を聞いていると、「ああこの人の英語はちょっと癖があるな」とか「この人の発音はまるでネイティブ・スピーカーのように上手だな」とか感じることがあるが、はたして「訛りのある日本語英語」は、それほど悪いものなのだろうか？

どんな外国人にもある程度の訛りはある。例えばオーストラリア、アメリカ南部、ロンドン訛り、そう言う

人たちも何の問題もなく自分たちの訛りを楽しんでい。日本で日本人が「関西弁」や「東北弁」と言ったものを楽しむのと同じである。日本語は、英語に比べて子音・母音の数が少なく、母国語で全く使わない発音が上手でないのは当たり前である。もちろん公の場で話すのに、あまりに訛りのある英語をしゃべるのは好ましくないかもしれないが、普通に意思疎通するのであれば、ある程度訛りがあってもかまわないと思う。むしろ小学生のうちから正しい英語の発音を身につけさせようと言うのは、小さな子供に無理難題を与えているように思われるし、身についたとしても、大人になって英語を使わないとするならば、長続きしない。

外国で本当に必要とされる英単語とは？

実は英語で意思疎通する能力(英会話を含めて)において最も必要とされるのは、単語の数である。この点で日本人は、大きなハンディキャップを背負っていて、我々の知っている英単語は、大学卒業時点でも極めて少ない。「大卒ならばある程度難しい単語を知っているだろう」と考えるのは、一部は正しく一部で間違っている。ここで言う英単語とは、大学入試に出てくるような高尚な単語ではなく、日常生活で使う単純でくだらない単語のことである。その中には、例えば寿司屋で出てくる「ウニ」、「ヒラメ」といった固有名詞、「踏切」「信号」「追い越し」といった交通用語、極端に言う「4文字」で代表される「汚い言葉」などがある。日本の一流の受験生でも「貴族政治」という単語を知っていても「踏切」を知らない受験生がいる。「学校で教えられる英語」と言う性格上そのようなことは仕方がないのではないと思う。

現時点で、非常に頻繁に英語で意思疎通する能力が必要とされるのは、極めて少数の人たちであり、

そう言う人たちは、自力で苦勞して何とかやっている。我々は、外国語の会話ができると言うことを過大評価していき過ぎると思う。日本には「恥」という文化があり、外国語ができないことをことさら恥ずかしいと思ったり、訛りがあることを「恥」として、共通語的なアメリカ英語を小学生のうちから学習して欲しいと思ったりする。英会話ができると言うことなどは、日本で生きて行く上で、「小学校で学習する」ほど重要なことではないと思う。小学生のうちは、算数の基本的な計算や、国語の漢字の知識といった、我々の実生活の上で必要不可欠な知識・技能に割かなくてはならない時間が多いのに、そちらを削って「英会話もどき」の授業を実施しても弊害が多いであろう。

「英会話ができない」より「漢字が書けない」「分数の計算ができない」という日本人が沢山できたら困るのではないと思うのである。

[文:杉村 聡]